第４　北海道洞爺湖サミットをめぐる動向

北海道洞爺湖サミットをめぐり，国内外の諸団体が様々な活動を展開
―過激派や国内外反グローバル化勢力が，活発なサミット反対行動を実施―
―右翼団体の中には，会場接近を企図する動きも―

北海道洞爺湖サミットは，7月7日から9日までの間，北海道洞爺湖町で開催され，また，これに伴う関係閣僚会合も，3月以降，全国各地で開催された。

北海道現地反対行動への結集を目指し，国内諸団体が各地で活発に活動

サミットをめぐっては，過激派及び過激派主導の反グローバル化勢力が，サミットを「新自由主義政策の推進会議」などと決め付け，反サミット気運の盛り上げを図るため，サミットに先立って開催された関係閣僚会合などに合わせて反対行動を実施した。なかでも，中核派がサミット直前に実施した抗議デモ（6月，東京）では，活動家が逮捕される事案も発生した。

また，JRCL主導の「ATTAC-Japan」を始めとする反グローバル化勢力は，年初から，海外参加者の宿泊場所の確保など受入れ準備に奔走するとともに，海外反グローバル化勢力に対し，反対行動での共闘を呼び掛けた。

「ピースウォーク」に，過激派や国内外反グローバル化勢力が結集

過激派や過激派主導の反グローバル化勢力は，7月初めころから札幌市や洞爺湖町周辺に次々と結集し，国内外諸団体と連携して，サミット反対活動に取り組んだ。とりわけ，7月5日，地元市民団体などが呼び掛けて札幌市内で実施した「ピースウォーク」（参加者約2,000人）には，過激派や国内外反グローバル化勢力が「反サミット」の立場から参加し，一部の参加者が大音響を出しながらデモ行進する中，警備当局の警告を無視し，違法なデモを扇動するなどして，4人が逮捕された。また，中核派や革マル派などは，サミット前日から，「サミット粉砕」を掲げて，それぞれ札幌市

混乱した「ピースウォーク」（7月5日）

内で反対集会・デモを実施した。

なお，国際テロを始め，懸念された反グローバル化勢力による暴動や過激派によるテロ・ゲリラ事件の発生はなかった。

海外の反グローバル化活動家も来日

海外からは，サミット開催に合わせて，「ATTAC-FRANCE」を始め，各国の反グローバル化団体の活動家ら計200人以上が来日し，前記「ピースウォーク」に参加するなど反対活動を行った。なお，過去のWTO閣僚会合時に多数の逮捕者を出した韓国の反グローバル化団体の活動家ら約100人が来日したが，入国審査の際，数十人が上陸を許可されず，そのうち1人が公務執行妨害罪で逮捕された。

「ピースウォーク」に参加した海外の活動家

右翼団体は，「北方領土奪還」などを主張する好機ととらえ活動を展開

右翼団体は，米・中・ロ首脳らが来日するサミットを，右翼の主張をアピールする好機ととらえ，6月下旬以降，一部団体が，札幌市内で「北方領土奪還」，「反中国」，「反米」などを主張する街宣活動を実施した。特に，7月5日から9日までの間，同市内の大通公園周辺に集結して街宣活動を継続したり，「反サミット」の集会・デモ行進参加者に対する抗議活動を実施し，一時双方が対峙する場面も見られたが，不法事案は発生しなかった。また，反中国を訴えるため，街宣車で洞爺湖町へ赴いたり，サミット会場に接近しようとした団体もあったが，厳重な警備に活動を阻まれた。

「ピースウォーク」参加者に抗議する右翼（7月5日）

北海道以外では，首脳会合初日，一部団体が，東京や神奈川で，外務省や内閣府に「サミットでは領土問題に毅然とした態度で臨むべき」などと求める要望書を提出したり，「北方領土奪還」を訴える街宣活動などを実施した。